

## ズブズブ班 C

**中部ラオスでのサーベイから考えた、今後の北ラオス調査計画の可能性**  
**—水資源に対する伝統的利用法および観念とその歴史的变化—**  
**イサラー・ヤーナターン、加藤 久美子 (名古屋大学)**

キーワード：伝統的資源利用、村落間関係、オーラルヒストリー  
調査期間・場所：2003年8月7日～2003年9月1日、  
タイ国チェンマイ、中部ラオス

**Research plan concerning changes of traditional water resource management in Northern Laos: in  
comparison with cases of Central Laos in the last survey**

**Isra YANATAN, Kumiko KATO (Nagoya University)**

Keywords: Traditional Resource Management, Villages relationship, Oral history  
Research Period and Site: 2003, August 7 – September 1, Chiang Mai (Thailand) and Central Laos

### 1. はじめに

本報告の筆者は二人とも、ラオス北部を含めた、盆地空間のタイ族地域を主な研究対象として調査・研究をおこなってきた。昨年（2003年）度の調査は主に中部ラオスを中心になされたが、そこで得られた知見から、盆地空間のタイ族地域において今後どのように調査を進めるべきかについて新たに考えを持つにいたった。本報告は、昨年度の現地調査で印象に残ったこと、およびそれをもとに考えた今後の研究計画を記すものである。

2003年の現地調査は、タイ国チェンマイにおいて研究者からの情報収集および文献調査、中部ラオスにおいて研究機関との打ち合わせおよび現地調査（ジェネラル・サーベイ）をおこなった。現地調査では、ウィエンチャン周辺の村落の地理的特徴とそこに住む人々の川や沼の利用のしかたを見ることができた。

以下、まず昨年度の調査で印象に残ったことについて記し、そのあと北ラオスでの調査計画内容を示したい。

### 2. 昨年度の中部ラオスでの調査

#### 1) 河川での個人投資による魚養殖

ダム川で魚の養殖をしているインフォーマントからの聞き取り調査および観察をおこなった。ダム川のような比較的大きな河川で、現金収入を得るために魚養殖をしている例を見たのは初めてのことであった。また、養殖のかたわら、川魚の捕獲を試みていることを観察し、それも売りに出していることを確認した。

#### 2) 集落周辺の小河川・沼での魚の利用

集落周辺の小河川や沼でも、魚の捕獲をおこなっている様子を見ることができた。その景観は盆地空間のものとはかなり異なるものであった。

また、政府関係のプロジェクトで、小河川へ魚の放流をおこなうのを観察することができた。それはタイ側の政府機関がもたらした魚を放流したものであった。

#### 3) ウィエンチャン周辺の市場での魚の売買

市場では、養殖された魚ばかりではなく、村人が沼や川で捕獲した魚を売買するのを観察することができた。

### 3. 北ラオスでの水資源利用について——中部ラオスとの比較

北ラオスを含む盆地空間で、筆者二人がこれまでに見たことのある魚の養殖は、溜池や小さな沼を利用してのものだった。今後は、北ラオスでも河川での魚養殖が現金収入を得るためになされているかどうか、なされているとしたらそれはいつごろどのように始まり、どのように経営されているものなのか、調査をおこないたい。

また、もしなされていないとしたら、それはどのような理由によるのか、中部ラオスとの比較で考えることが必要であろう。

一方で、市場において売買されている魚が養殖によるものか捕獲した自然の魚なのかを確認し、そこから考察を深めていきたい。

盆地空間では、中部ラオスとは異なりタイ国との直接的交流はなく、水資源の景観や規模も相当に異なる。魚養殖のあり方や魚捕獲のしかたは、同じラオスでも中部と北部とではかなり異なるものと予想される。

#### 4. 北ラオス調査で注意すべきこと

北ラオスを含む盆地空間では、複数の村落が同一河川を灌漑に用いるなど、同一水資源に複数の村落が関わっていることが多い。水資源の利用を考える際、村落間関係を抜きにして考察することはできない。

また、これまでの調査では、水資源に対する信仰を含む観念の世界が、水資源利用とその歴史的变化を見るために重要であることが確認されている。それにも十分な注意を払う必要がある。

本報告の筆者は、一人は北ラオスにおいて同一の水資源（沼、川）を用いる複数の村落で聞き取り調査を行い、村落間関係に注意しながら水資源の利用のしかたと水資源に対する観念の歴史的变化を追っていきたいと考える（イサラー・ヤーナターン担当）。

もう一人は、タイ系民族（ラオ族を含む）の資料が多く集められているタイ国チェンマイで、タイ系民族の水資源利用と水資源に対する伝統的観念について、歴史的变化という視点をもちながら文献調査を行いたい。広くタイ系民族について調査を行う中で、北ラオスがどのような特徴をもった地域かを考察していければと考えている（加藤久美子担当）。